

紀北家畜保健衛生所	TEL 073-462-0500
紀南家畜保健衛生所	TEL 0739-47-0974
東牟婁支所	TEL 0735-58-1481

牛におけるイバラキ病を疑う疾病の発生について

今秋、兵庫県の複数の農場においてイバラキ病を疑う症状を呈する牛が確認されました。管轄の家畜保健衛生所で検査したところ、イバラキウイルスが属する流行性出血病ウイルス（EHDV）に群特異的な PCR では陽性、イバラキウイルスを用いた抗体検査は陰性との結果となりました。このため、動物衛生研究所において遺伝子を解析した結果、イバラキウイルス（EHDV 血清型 2）とは異なるが、EHDV 血清型 6 に高い相同性を示す遺伝子が検出されました。

イバラキ病とは？

《原因》

レオウイルス科、オルビウイルス属、シカ流行性出血病ウイルス（EHDV）群に属するイバラキウイルスで、遺伝学的・血清学的に EHDV 血清型 2 に含まれます。平成 9 年に発生したイバラキ病と死流産は当初本ウイルスの変異株が原因とされていましたが、現在では EHDV 血清型 7 に属する新しい株によるものであったことが判明しています。

《疫学》

ウイルスは吸血昆虫（主に体長 1～3mm ほどのヌカカ）によって媒介され、牛、水牛に伝播します。ウイルスの流行には季節性（夏～秋）があります。牛から牛への接触感染はありません。

《臨床症状》

軽度の発熱とともに、食欲不振、流涙、結膜充血、浮腫、泡沫性流涎、鼻腔、口腔粘膜の充血・鬱血・潰瘍、跛行等がみられます。その後、発症牛の約 5% に食道麻痺・咽喉頭麻痺・舌麻痺による嚥下障害が発生します。平成 9 年には EHDV 血清型 7 の株の感染により、これらイバラキ病の典型的症状に加えて死流産もみられています。

《近年の発生》

平成 25 年に鹿児島県で発生が確認されています。また、おとり牛（抗体陰性牛）を用いた抗体調査が毎年各都道府県で行われており、関東から九州にかけて散発的に抗体の陽転がみられています。ちなみに本県では平成 9 年と平成 20 年に陽転が確認されました。

《最後に》

現在のところ、兵庫県以外でこのような事例の報告はありませんが、イバラキ病を疑う症状を呈する牛が確認されましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご連絡ください。

何かご質問等がございましたら、最寄りの家畜保健衛生所にお問い合わせください。